報道関係者向け資料

2023年2月発行
フェリシモ広報部
078-325-5700　press@felissimo.co.jp

自然と社会としあわせになるために
フェリシモ サステナビリティ活動ニュースレター

Contents

1. 活動サマリー
2 .最近のトピックス
3 .基金インデックス
4 .活動紹介
5 .推し社員図鑑
6 .参考資料：マンスリートピックス

FELISSIMO

活動サマリー

※各人数は基金、基金付き商品、フェリシモメリーのユニーク会員を商品単位でカウントしています
※2023年1月時点

これまでの取り組みへの参加人数786万人

基金総額29億円

人・自然・動物にまつわる77の取り組み

33年の歴史

誰もがしあわせの創り手となり、贈り手となれる、誰もがしあわせを受け取る人になれる。
そんな社会を目指し、お客さまが普段のお買い物で楽しく参加できる取り組みをそろえています。

― さまざまな取り組みに生活者が参加―

フェリシモの森基金　84,891人
（100円基金のみの算出）

フェリシモ地球村の基金　52,191人

震災復興支援　193,650人
（阪神淡路大震災、東日本大震災などの合算）

フェリシモわんにゃん基金　24,220人

参加者が集まり継続支援ができる理由

①充実した基金付商品ラインナップ……ライフスタイルにあわせたお買い物で参加が可能
②定期便システム……お客さまと支援先をつなぎ、支援状況が見えるマンスリーコミュニケーション
③商品企画……コンフォータブル＆ファッショナブル×サステナブルの両立は商品にとどまらず梱包資材やカタログ制作にも

最近のトピックス

発達障がいをサポートするアイテムを「LITALICO発達ナビ」と共同企画

～困り事やニーズに寄り添い生まれた、やさしいアイテム

【フェリシモCCP】2022年9月6日販売開始

フェリシモが展開する、障がいのある人たちを応援するプロジェクト「CCP［チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト］」は、発達が気になる子どもの保護者や支援者向けポータルサイト「LITALICO発達ナビ」と共同で企画開発した人気のアイテム「リュックインナー」と「タスクチェッカー」の新バージョンを9月6日よりWEB販売しています。メ「リュックインナー」は、メッシュ素材を採用し、ポケットの色をすべて変えるなどリュックの中を視覚的にわかりやすくするアイデアを多数採用。「タスクチェッカー」は毎日の行動を習慣化する便利アイテムで、ユーザーからの声を反映して紙素材から丈夫なプラスチック素材にリニューアルしました。

発達障がいのある子どもを持つ保護者のたくさんの声からお悩みを分析し企画を考案

今後の展望

販売開始後もユーザーにアンケート調査やオンライン座談会、サンプルモニター募集などを実施し、リアルな声を活かした「本当に欲しい商品」の開発を続けています。CCP[チャレンジド・クリエイティブ・プロジェクト]は、障がいのある方もない方も、だれもがボーダーレスにつながる社会の実現を目指しており、7月には神戸市と連携し「神戸市障がい者手帳カバー」のデザイン4種を発表しました。

100円からひとり親家庭を応援できる「みんなでおそなえギフト」の販売を開始

～お寺の「おそなえ」を困りごとを抱える家庭におすそわけ～

【おてらぶ™】2022年10月17日販売開始

フェリシモが展開する「おてらぶ™」は、ひとり親家庭を100円から応援できる「みんなでおそなえギフト」のウェブ販売を10月17日より開始しました。「みんなでおそなえギフト」は、ひと口100円（+8%　108円）で販売され、購入金額が8,000円に達するごとに、お米やお菓子の詰め合わせ1箱となり、全国のお寺におそなえされます。その後、認定NPO法人おてらおやつクラブ（奈良県田原本町　代表理事：松島靖朗）を通じて、全国の困りごとを抱えるひとり親家庭に「おすそわけ」として、匿名でギフト配送されるという仕組みです。みんなで共同購入という形をとることで、100円という気軽な金額から参加することができます。

受け取られた方のお声など、活動レポートはフェリシモ「おてらぶ™」のWEBサイトで報告されます。

企画の背景

コロナ禍の影響で、おてらおやつクラブから直接支援を受ける家庭が、　2019年と比較して2021年には16.9倍（約6,000件）と急増。通販のお買い物とあわせて参加できるフェリシモの毎月　100円基金を運用してきた 30年の実績と物流配送システムを、プライバシーを配慮した本取り組みの匿名配送に活用します。

取り組みインデックス

※抜粋版

私たちは想いをともにする人々と「ともにしあわせになるしあわせ」を共創することを通じてしあわせ社会の実現を目指しています。人、自然、動物のこと。事業活動に加えて、基金や環境への取り組みなど、お客さまや社員一人ひとりの思いを大切に、いろいろな課題に向き合う持続可能な活動を継続してきました。

1990 2000 2010 2020

人

- フェリシモ地球村の基金
- 国内医療支援（骨髄移植＆心臓（臓器）移植など）
- HIV（ヒト免疫不全ウィルス）/AIDS対策活動支援
- 地雷廃絶活動支援
- グラミン・フェリシモ（インフィニット・ホープ基金）
- たすけあい基金
- 盲導犬育成支援（★）
- ips細胞研究支援（★）
- 阪神淡路大震災義援金
- 東日本大震災100円義援金
- もっとずっときっと基金
- 北海道胆振東部地震支援基金
- フェリシモこども基金
- 国内の難病のこどもの夢をかなえる活動支援（★）
- 難病のこどもたちとその家族を支える活動支援（★）
- 紛争地域のこどもたちへの医療活動支援（★）
- 世界のこどもたちへの栄養改善事業支援（★）
- 子どもの貧困問題に取り組むおてらおやつクラブ活動支援（★）
- スラム地域のこどもたちへの保護衛生活動支援
- スリランカ津波こども教育基金支援
- LOVE＆THANKS基金
- PEACE BY PEACE COTTON PROJECT
- リブラブコットンプロジェクト
- CCP（シーシーピー）
- フェリシモハッピートイズプロジェクト
- メリーファンディング（★）
- 神戸学校
- トリビュート基金
- Her smile 基金
- もしもしも防災基金

自然

- フェリシモの森基金
- はな・はな・みどり基金
- 海基金
- Hokkaido木村秋則自然栽培農学校と木村秋則さんの指導活動支援（★）
- フェリシモエコエステティクス（環境美学の追求）
- エコラ

動物

- 自然環境の保全と野生動物の保護活動支援（★）
- 動物たちの保護と飼い主探し支援（★）
- フェリシモわんにゃん基金
- フェリシモの猫基金
- フェリシモの犬基金
- フェリシモ小鳥基金

★…フェリシモのお買い物で貯まるメリーポイントのプログラムのひとつとして展開

活動紹介

自然・環境　植林

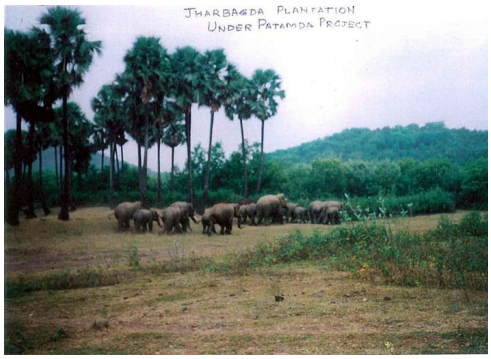
フェリシモの森プロジェクト （1990～）

国内外2,866万本を植樹　参加者400万人

https://forest.felissimo.co.jp/onecoinact/

未来の世代に緑あふれる地球を贈りたい。そんな想いから始まったひと口100円の「フェリシモの森基金」。1990年、「環境問題」という言葉がようやく浸透しかけていた時期※に発足し、国内外42ヵ所約2782万本の植林と森づくりを実現してきました。
インドでは人的伐採によって荒廃した森を植林により復活させ、2006年には、森に象の群れが戻り、マンゴーの収穫が始まり、農家が収入を得られるようになりました。植林を初めてから約20年で、村には森を中心としたコミュニティと仕事が生まれ、生命・生活・生業が循環する社会ができあがりつつあります。環境問題だけにとどまらず、地域の自立や産業としての地域発展につながることまで見据えて活動しています。

※1992年リオデジャネイロで「国連環境開発会議（地球サミット）」開催、1997年に「京都議定書」が採択



トピックス
1993年から続くインド緑化プロジェクトの支援。2021年度は年間422,725本のマングローブ植樹と延べ1,872名の雇用を創出しました。

ダイバーシティ＆インクルージョン　障がい者支援

CCP　シーシーピー （2003～）

120以上の福祉事業所と300種類以上商品化

https://www.felissimo.co.jp/company/contents/category/sustainability/ccp/

障がいのある人たちの個性や能力を活かすことですべての人がお互いのちがいを認め合ってつながり、ともに成長していく社会をめざすプロジェクト。これまで、全国120以上の福祉事業所や、NPO・企業・クリエイターなど多数のパートナーと一緒に、300種類以上を商品化してきました。2016年に設立した「チャレンジド応援基金」には多くの方がCCP商品のお買いもので参加してくださり、1,494,025円（2022年11月現在）の基金が集まりました。基金は地域の福祉事業所の支援活動に拠出しています。CCPに共感してくれるたくさんの人たちとの出会いから、チャレンジドの創造的な可能性をアートの形で社会に発信するファッション雑貨ブランド「ユニカラート」、キャラクターと一緒にこころのボーダーをなくす「ブルーナ　バリアフリープロジェクト」、発達障がいのある方の暮らしの困りごとを解決する「スペシャルニーズサポート」のプロジェクトも生まれています。

トピックス
神戸市と連携して「神戸市障がい者手帳カバー」の新デザインを制作。ミッフィーとダーンの 2色展開のデザインやチャレンジドアーティストの作品を採用したポップなユニカラート柄から選べます。周囲の理解を深めるとともに、明るく前向きな気持ちで持ち歩けるように、というメッセージが込められています。

活動紹介

災害支援　東北支援

もっとずっときっと基金(2011～)

https://www.felissimo.co.jp/company/contents/category/sustainability/motzutkit/page/4

累計基金額¥439,490,300

フェリシモは阪神淡路大震災を起点に災害支援に取り組み続けています。国内の自然災害を受けた地域の復興をみなさまと一緒に応援していくことと同時に、防災・減災・縮災活動にも活用しています。「もっとずっときっと基金」は東日本大震災発生以来、月1口¥100からの復興支援を10年間継続しました。女性による東北の産業復興を支援する「とうほくIPPOプロジェクト」をはじめ、東北地域の復興を支援するさまざまなプロジェクトに活用しました。2022年12月現在の参加口数は16,426口(フェリシモ定期便2022年12月分)と発表しています。現在では支援の対象を東北から全国に拡大して、震災やさまざまな災害からの復興にすみやかに対応するとともに、防災・減災などの取り組みも推進しています。

トピックス

「とうほくIPPOプロジェクト」は 10期まで実施し 180件の活動を支援。2022年以降支援の対象を拡大し助成事業を募り「福祉避難所マニュアル作成研修会」がスタート。高齢の方や障がいがある方の命を守る避難所運営を支援しています。

動物保護

わんにゃん支援活動(2011～)

https://www.nekobu.com/merry/

総額5億円以上を動物保護に活用

基金付き商品、月100円寄付をしていただく「フェリシモわんにゃん基金」、メリーポイントによる支援、その他の取り組みでいただいた、動物愛護に関するすべての基金を総称して「わんにゃん支援関連基金」とし、総額5億円以上の基金が動物保護活動の支援に活用されています。「行き場を失ってしまった猫や犬たちを救い、さつ処分をなくしたい」というお客さまの声から生まれたわんにゃん支援活動。猫と人がともにしあわせに暮らせる社会を目指す猫部による基金付き商品の販売や毎月1口100円の「わんにゃん基金」などでお客さまからお預かりした基金を保護活動や里親探し、猫の過剰繁殖防止活動、さらに災害時の動物保護活動にも役立てています。2021年度は65団体の動物保護活動に拠出されています。

トピックス

2022年の猫の日(2月22日)には阪急電鉄 ×猫部 猫車掌さんがかわいく敬礼する「パスケース」や「トートバッグ」などコラボグッズ 6点が誕生しました。

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

オーガニックコットン　フェアトレード　ファッションレボリューション

山﨑 友里子

30代 /
オーガニックコットン歴14年

職位・経歴	ファッション事業部　リブイン コンフォートグループ 企画チーム
専門分野	シューズフィッターの資格を持ち、販売累計 100,000足突破※の「フラットシューティー」を企画。※2022年4月末時点
推薦コメント	着心地の良さと高いファッション性、そしてリーズナブルなオーガニックコットンのファッションアイテム作りに10年間以上従事。
備考	閑散期の刺しゅう指導「stitch by stitch project」も実を結び、リブイン コンフォートの夏の新作には彼女たちの作品をあしらったTシャツが新登場。

いちばん大切なのは「続けること」

インドのオーガニックコットンを使用した商品1枚につき100円の基金を付けて販売し、栽培農家を支援する「リブ ラブ コットン プロジェクト」。累計基金額は2021～2022年で11,155,300円に倍増するなど着実に支援の輪を広げている。

―― プロジェクト開始当初はコスト面や生活者への理解浸透に苦戦

山崎：実際に綿花を栽培している土壌、ひいては地球や生産者にやさしいオーガニックコットン。買い手にとってのメリットが見えづらく、コスト面との兼ね合いに苦労したことも。それでもオーガニックコットン栽培により生産者の健康被害が減ったり、やせた土地に緑が戻ってきたり、集まった基金で現地に学校が建って子どもたちが通えるようになったり……ということを支援先から直接聞き、自分ごとのように感じているので、大変でもやめてはならぬ……という気持ちです。オーガニック農法への転換は3年かかりますし、続けないと意味がないのです。

――支援地域の女性たちへ、閑散期の収入源となる刺しゅう技術のレクチャーも実施

山崎：7年前から現地女性の収入向上のために「stitch by stitch project」という閑散期の刺しゅう指導を開始しました。商品化にあたっては、毎回おおよそ20名ほど、10代～30歳ぐらいまでの女性たちが2,000～3,000枚を半年ほどかけて仕上げてくれています。日本から送ったパーツが半年経っても届かなかったり、お願いしていた色と微妙に違って仕上がってきたり、納期への意識がうまく伝わらなかったりと苦労も多々ありました。ただ刺しゅうには危ない作業が発生しませんし、手に職がつけられたことでメンタル的に自信を付けられたという声を聞いて手ごたえを感じています。

――支援先と繋がりながら、必要な支援をヒアリング

山崎：インドの女性たちとオンラインでつながって直接お話して、彼女たちのことをより身近に感じています。この1年は新型コロナウィルス対策やジェンダー研修も実施しました。オーガニックコットンの栽培支援にとどまらず、村に対してどういった支援を行っていくのか、時間をかけて計画しています。できるだけ顔の見える支援にして、思いを寄せてくださるみなさまに愛着を持っていただけるようこれからも活動していきます。

ご取材いただけるポイント

・現地とのオンライン会議の様子

・企画会議、サンプルチェックなどの裏側潜入

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

伝統産業　クールジャパン

職位・経歴	日本職人プロジェクト　プロジェクトリーダー
専門分野	アートディレクターやプランナーなど様々な顔を持ち、過去にはシリーズ累計280万個以上の販売実績を持つ服型ペットボトルホルダー「ミュニデ®」を手掛けた
推薦コメント	未来に残すべきモノづくりを応援する「日本職人プロジェクト」に17年携わり、職人の方々が前向きに取り組めるモノづくりの場を提供
備考	10年前より絵画を学び、個展開催など活動の場を広げている

山根 雄作

40代 /日本製の整体師

日本の職人とともに、立ち話から新しい“日本製”をつくる。

大量生産の商品があふれる時代に逆行し、職人とともに誰かの想いや憧れがしみ込んだ「物語」をかたちにしている「日本職人プロジェクト」。そのストーリーに多くの人が共感し、年4回の新作発表のたびに予定数量を大幅に超える受注を受ける。

――「日本のものづくりはこれからどうなっていくんだろう？」という疑問から企画がスタートして17年

山根：入社してから3～4年の頃、アジアの工場に依頼して大量生産するのがあたりまえのビジネスモデルを目の当たりにし、「日本のものづくりはこれからどうなっていくんだろう？」という疑問がわいてきたんです。鞄の産地である兵庫県豊岡市の工場で話を聞くと、職人さんの仕事は海外で作られた縫製品の最終仕上げなどがメインとなっていて満足している感じがしなくて。そこから自分がずっと大切にできるもので、数万円出しても買いたいと思えるものを日本製で作ろうと企画をスタートさせました。

――誰かのものへの想い入れや記憶をかたちに

山根：“人となり”が“ものとなり”になっているんだなと感じられるモノは多くの共感と反響を呼びます。たとえば販売開始後すぐに完売してしまった「小田原のガラス職人が作ったオーロラが溶け込んだ宙吹きグラス」は、「いつかガラス職人だけで食べていきたい」という想いを持ち続けた職人さんがトラックの運転手をしながら軌道に乗るまでのエピソードに我々もグッときて。お客さまにも「物語」の断片をできるだけ多く共有するために、あえてたくさんの情報に触れていただけるようにしています。職人さんのところへ行く道中でなにを食べた、一度企画がストップしたけどまた始まったなど、企画の界隈にあるあれこれを見せることで、本当の「物語」を伝えたいという気持ちがあります。

――大量生産とは逆行するような新しい価値をつくっていくこと

山根：“伝統を受け継ぐ”とか”高品質を維持する“というこだわりだけが日本製ではなく、誰かのリアルな想いや憧れを職人さんのモノづくりの起点にしていただくことが私のチャレンジです。そこまで持っていくのは大変だけど、数年かけてやっと完成した商品がヒットすると職人さんも「このやり方でいいんだ！」と納得して、次はもっとモチベーション高く商品がつくれるようになる。これからもそうやってものづくりを行う人たちとたくさん出会い、「物語」のあるものをつくり続けていきたいです。

プロジェクトの原点となった山根の父の物語を形にしたダレスバッグ（上）と溜塗（ためぬり）の文字盤が美しい時計（下）

ご取材いただけるポイント

・日本各地に赴き、職人と打ち合わせしているところ

・企画会議、サンプルチェックなどの裏側潜入
・企画会議、サンプルチェックなどの裏側
・カタログ撮影の様子

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

動物保護

小木 のり子

30代 /猫部部長

職位・経歴	生活雑貨事業部猫部グループ兼キャラクターグループ
専門分野	猫部、キャラクターチームの商品企画
推薦コメント	社内の猫好き6人が集まって2010年に結成したフェリシモ「猫部™」。**これまでの動物保護に関する基金拠出総額は5億円以上**※に及ぶ。※2003年6月～2022年2月　複数の基金による合算
備考	猫の殺処分数は2015年～2020年で67,000頭から19,000頭へと大幅に減少※。2022年より「AIM医学研究支援基金」をスタートし、猫の腎臓病治療への研究も支援 ※環境省統計資料「犬・猫の引取り及び負傷動物等の収容並びに処分の状況」より

お買い物で楽しく「猫助け」！

「猫と人がともにしあわせに暮らせる社会をつくる」をミッションに、2010年から活動している猫部。社内外の猫好きさんとともに商品開発を行い、発足以降、数々のヒット商品を生み出し続けている。

――　隣の席の同僚に意見を聞くくらいの感覚で、お客さまに聞いてみるというのが猫部の文化

小木：商品開発の際は猫好きで猫思いのお客さまのリアルな声を聞くというスタンスをとり続けています。SNSなどを通して「どちらの色がかわいい？」というライトなことから、商品仕様などの込み入ったことまで問いかけています。猫の魅力をお客さまに問いかけて出てきた「もふもふ感」や「プニプニ感」というキーワードから「もふもふ猫足ルームソックス」や「プニプニ肉球の香り　ハンドクリーム」が生まれました。

―― 私たちができることとして、基金付きの猫グッズを販売

小木：　創部当初、年間約20万匹の犬猫がさつ処分されていることに部員たちは心を痛めていて「動物がさつ処分される状況を企業としてなんとかしたい」という思いから活動を続けてきました。そこで、猫部で販売している商品には全て基金を付けて、上代の約3%（商品によって異なる）が動物愛護の支援活動に拠出される仕組みになっています。

――さつ処分がゼロになるその日まで活動を続けていく

小木：お預かりした基金は、全国の約65※の動物愛護団体へ拠出しています。寄付金の使い道は主に4つ。飼い主のいない動物の保護と里親探し、保護した動物のフード代や医療費、野良猫のTNR活動、そして災害時の動物の救護活動です。基金による団体支援に加えて2019年からは、地域猫活動のことをより知っていただくため「猫の日チャリティーTシャツ」の販売も実施。毎年猫好きの著名な方々にご協力いただいて、耳先をVカットした地域猫をテーマにしたデザインのTシャツが生み出されています。NPO、企業、行政と獣医師会が一体となって地域猫の課題解決に取り組む「神戸市人と猫との共生推進協議会」のメンバーとしても活動しており、さつ処分される猫がゼロになるその日まで、猫好きのみなさまとともに続けていきたいと思っています。

※2022年現在

ご取材いただけるポイント

・商品企画の裏側潜入

▲毎週水曜日13:00～14:00に企画会議を実施。間もなく2023年猫の日（2月22日）企画がキックオフする

・オフィスでの譲渡会開催風景

▲2012年9月より、オフィスでの譲渡会を地元の保護団体と共同で開催。2021年8月までで567匹の猫がマッチングした実績がある。今後はコロナ前以上の毎月へと開催頻度を上げることを検討中。企業のオフィスの貸し出しは珍しいという。

▸推し社員たちのさまざまな活動をウェブで公開中
https://www.felissimo.co.jp/company/contents/category/sustainability/with/

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

動物保護

宇野 加恵

40代 /小鳥部部長（文鳥担当）

職位・経歴	総務部　人事労務政策グループ兼小鳥部部長
専門分野	育休後アドバイザーの資格を持ち、女性社員が多いフェリシモで毎年多くのプレママや復職ママへのサポートを行う
推薦コメント	犬や猫より少数派である小鳥好きさんのための部活を設立。社会のニーズを汲み取り、新たな価値を創出した。小鳥部SNSの総フォロワー数は1万人を超える
備考	「認定NPO法人TSUBASA」さまを支援し、2021年度には飼育環境に恵まれない文鳥103羽の大規模レスキューや30羽の里親譲渡に基金が活用された

小鳥と飼い主がしあわせに暮らし続けるために

飼い主のいない小鳥の保護や里親探し活動を支援している「小鳥基金」。小鳥好きさんのための商品を基金付きで販売し、小鳥が長くしあわせに暮らすための活動をサポートしている。

―― 少数派でも、小鳥好きさんたちの生活をもっと楽しく！

宇野：「小鳥基金」の母体となる「小鳥部」は、お客さまからいただいた「犬や猫にまつわるグッズ、イベント、支援は世の中にたくさんあるけれど、小鳥には少ないので、ぜひつくってほしい！」というお声からスタートしました。少数派でも小鳥好きさんたちとともになにかできないかと、小鳥好きの社員たちが集まって「小鳥部」が誕生。大人でも使いやすい小鳥グッズの展開や、社会の小鳥好きさん同士がつながる場づくりを目指して活動をしています。

―― 正しい知識を身につけて飼い鳥の命を守る

宇野：小鳥は実は長生きする生き物で、小さな文鳥でも10年、大きなオウムであれば50年以上生きることもあり、飼い主が先に亡くなってしまったり、仕事や家庭の事情で飼えなくなってしまうなど、さまざまな理由から行き場を失ってしまうことがあります。また、飼い鳥の鳴き声や噛みつきなどが原因で捨てられてしまったり、無責任な飼育によって増えすぎてしまったりすることも少なくありません。そうなってしまう原因の一つが、飼い鳥に関する正しい知識が広まっていないこと。これらの課題を解決する一助となるために、埼玉県にある小鳥の保護施設「とり村」で、小鳥を保護して里親を探す活動や飼い鳥に関する情報発信も積極的に行っている団体を支援しています。

―― 小鳥好きさん向け商品で小さな命に寄り添う基金活動を実施

宇野：小鳥はただかわいいだけではなく命ある存在です。その命とちゃんと向き合ってはじめて、小鳥と飼い主の間に愛情や信頼関係が育まれ、癒されたり元気をもらったりできるもの。小鳥はとっても愛らしくて、飼い主の元へ飛んで出迎えてくれたり、ときにはヤキモチを焼いたりすねたり。小鳥と飼い主の関係ってお互いの日常をハッピーにしてくれる存在。今後も小鳥好きさん向けの商品を企画して基金付きで販売し、“小鳥との暮らしの豊かさ”を小鳥好きのお客さまと共有しながら、小鳥が長くしあわせに生きられる社会づくりにも貢献していきたいと思っています。

「YOU+MORE!×小鳥部　もっちりかわいいふっくらインコ＆オウムクッションの会 ¥3,071（税込み）、うち84円は基金として運用」

ご取材いただけるポイント

・商品企画会議に潜入

▲ミーティングは不定期で、月に1回開催。毎回4名～5名が参加している

・SNSでフォロワーの小鳥好きさんに新商品の仕様についてアンケートを実施している様子

・小鳥基金の支援先であるTSUBASAさまへの現状ヒアリング（オンライン）

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

防災

武智 直久
50代 /しあわせ共創のボランチ役

職位・経歴	会員サービス部 「みんなのBOSAIプロジェクトもしもしも」プロジェクトリーダー
専門分野	「iPS細胞研究支援」など、フェリシモのお買い物でたまるポイント「メリーポイント」を運用し、お客さまとともに実現する社会貢献活動を多数手掛ける
推薦コメント	被災地支援に長年携わり、被災時のニーズに知見を持つ。東日本大震災時には「東日本大震災メリーしあわせ基金」を担当。被災者、特に子どもが笑顔になれる活動を支援した
備考	フェリシモのお客さまの防災意識を高め、いざという時に役立つために、2015年に「スペースエマージェンシーキット」、2019年に「イメトレ防災セット」を手掛けた

みんなで支えて誰ひとり取り残さない防災を

「みんなのBOSAIプロジェクトもしもしも」は、定期便と基金の2つの備えを軸にした、未来に向けた防災プロジェクト。1995年に起きた阪神・淡路大震災での経験があったからこそ実現した、フェリシモらしい防災のあり方とは。

―― お客さまと思いを伝えあう関係性のなかで

武智：1995年の阪神・淡路大震災当時、入社2年目ほどだった私は、お客さまが我々を含め被災者を親身になって心配してくださることや、お客さまの思いに応えて懸命に復興を支援するフェリシモの姿に胸が熱くなったことを鮮明におぼえています。2011年に起きた東日本大震災でも、さまざまなプロジェクトや基金を通して10年以上に渡り復興のお手伝いをしてきました。昨今各地で発生する自然災害も目の当たりにし、この時代において「防災」は誰にとっても必要なことであり、“誰か”のプロジェクトとしてではなく、みんなで今できることを考え、アップデートし、未来に引き継いでいきたいと「みんなのBOSAIプロジェクトもしもしも」を立ち上げました。

――“防災備蓄の定期便”で日常的に災害への備えや防災について考えるきっかけに

武智：プロジェクトは“私を守る”ための定期便と、“みんなで支える”ための「もしもしも防災基金」という自助と互助からなる2つの備えを軸に展開しています。10ヵ月にわたってお届けする定期便の第一弾は「もしもしもきほんのきセット」。災害が起きたとき、ライフラインの復旧や物資の到着にかかる3日間を生き抜くためのセットで、食べやすい備蓄食品や普段使いできるサコッシュなど、機能性と保管のしやすさや持ち出しやすさなどを両立させました。また、日頃から防災意識を持つきっかけになればとの思いから、フェリシモ定期便を利用されるお客さま全般へ、「もしもしも　防災ガイド（台風・大雨編）」の配布なども実施しています。

―― 多様なニーズに対応できる防災を目指して

武智：商品代金の一部は「もしもしも防災基金」として運用し「フェリシモ財団」を通じてフェリシモの物流倉庫への備蓄、支援団体や自治体と連携して、ものをお届けするためのネットワークづくりなどを積極的に行っているところです。今後は、高齢者、障がいのある方、女性、妊娠中の方、子ども、ペットのための備えなど、さらにきめ細やかに対象を設定し、誰一人残さない防災を目指して進化していきます。

「みんなの防災もしもしもきほんのきセット、¥2,857（税込み）、うち26円は基金として運用」

ご取材いただけるポイント

・社外パートナーとの制作打ち合わせの様子

▲防災アナウンサー奥村奈津美さんと協働制作の「もしもしも防災ガイド」はフェリシモ定期便のお客さまに無料配布している防災ガイド。大雨・台風編を2022年9月に配布し、現在も続編となる「地震編」、「自宅最強編」の制作打ち合わせを行っている最中

・異業種の方々との防災研究会開催風景

NPOなどの支援団体や保険会社、不動産会社、配送会社など、業種の垣根をこえて、それぞれの視点から防災のために必要なことを話しあう会議を月に一度開催。毎月プレ防災演習など異なるテーマを設定して取り組んでいる

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

アートセラピー

木野内 美里 50代 /
チョコレートバイヤー27年

職位・経歴	創造価値継続事業・生活雑貨事業・文化事業推進の各部の商品企画担当を兼任
専門分野	メイン業務はチョコレート企画を担当して2023年で27年目を迎えるフェリシモのフードバイヤー
推薦コメント	約550ブランド・約 2700種類以上のチョコレートを輸入販売した実績。日本に初上陸させたチョコレートは295ブランド以上。著書・メディア出演多数　※2023年2月現在
備考	臨床美術士の資格を生かしたアートワークショップを国内外で開催。部活動として、社内外の部員と共にアート活動によって一人一人の違いが美しく輝く未来社会を目指す。

アートを通じてみんなの生きやすさを応援する基金

東日本大震災をきっかけに設立された「てのひらを太陽に基金」。アートセラピーの一種である「臨床美術」をベースとしたプログラムを通して、子どもたちの夢や感性を育むことを目指します。

―― みんなで育む基金を目指して

木野内：基金のネーミングは、「アンパンマン」でおなじみのやなせたかし先生が作詞を手掛けられた童謡「手のひらを太陽に」に由来します。やなせ先生とフェリシモは、オリジナルキャラクターを用いた商品をつくってきたご縁もあり、基金の名称に曲名を使わせていただけることになりました。東日本大震災が発生したとき、私が持つ臨床美術士の資格を生かしたアートプログラムを子どもたちに提供することで、復興の力になれるのではとの思いから基金を設立しました。「手のひらを太陽に」は、多様性を尊重し、みんなのいのちを大事にしようという思いにあふれていますよね。この名称なら、誰もが自然と基金の趣旨を理解でき、大事にしてくれるような気がしたんです。

―― 大人も子どもも心を癒すひとときに

木野内：基金は、被災地での活動費や、関東の児童養護施設や、病院で行う障がいのある方たちへのワークショップなどに活用しています。被災地にて学童保育などを中心に実施したアートプログラムでは、子どもたちだけでなく指導員の方たちにとっても、集中して絵を描くことで、一瞬でも被害の広がる景色を忘れて、自分と向き合う癒しの時間になったようでした。また、同じ頃にリリースした基金つき商品「脳が目覚めるお絵かきプログラム」は、うまい・へたは関係なく、誰でも気軽にアートでリフレッシュできるキットです。受講されたお客さまから、「私もこれだったら自信を持って絵を描ける」などと、うれしいご報告をいただくこともあります。

―― みんなちがって、みんないい！

木野内：　アートって、人間に必要な要素なんですよ。以前、脳科学者の茂木健一郎さんが「食事や睡眠と同じくらい、アートは人がしあわせを感じる要素です」と教えてくださって、私もすごく実感しています。年齢も立場も関係なく、ひとりの人間として輝けるのがアートです。“違い”って、本当は褒め言葉であって、とても美しい言葉です。「自分はこのままでいいのだ」ともっとたくさんの方に感じていただくために、これからも活動を続けていきます。

ご取材いただけるポイント

・臨床美術ワークショップの活動風景

▲企業や学校にて臨床美術士がワークショップを提供する「Rin-b!（リンビー）」の活動をしている。

・チョコ旅（海外出張）の様子

▲海外出張またはオンラインで、世界中の家族経営でやっているようなローカルなチョコレートを、日本で販売するための商談をまとめている。

推し社員図鑑

各分野でトガったフェリシモ社員をご紹介
コメンテーターのご依頼も承っています

こども支援

橋本 和也 30代 /

DXマーケティングリーダー

職位・経歴	マーケティングコントロールセンター　センター長 兼 定期便MC統括グループ　リーダー
専門分野	2016年よりデータ分析部門のセンター長に就任。翌年から販売企画部門の部門長も兼務し両部門の管理を担当。
推薦コメント	ファッション、生活雑貨、手 づくりなど年間数万点の商品を毎月1回届ける「定期便」に関するマーケティング領域を担う。定期便を通じて、お客さまとともにコロナ禍における社会課題に取り組むべく、「フェリシモたすけあい基金」を立ち上げる。

今、支援を必要とする人のもとへお届けする基金

新型コロナウイルスの影響により課題を抱える人たちや、未来をつくる子どもたちを支援する「フェリシモたすけあい基金」。誰もが当事者であるという視点を持ってみんなでつくる、これまでにないかたちの基金。

2021年に行った、「コロナ禍の小児病棟付き添いママを支援する『付き添い生活応援パック』

—— 対話をしながらみんなでつくる基金

橋本：2020年2月ごろから新型コロナウイルスの感染が世界的に広まるなか、誰もが恐れや不安を抱えながらも、「自分たちよりも大変な思いをされている方たちの力になれないだろうか」「自分にできることはなんだろう」と、多くの人が考えていました。そのような想いを重ねられる“場”として基金を設立できれば、さまざまな支援を実現できるのではないかと思ったんです。この基金は、アンケートを通じてお客さまとともに拠出先を考えるという点や、さまざまな団体さまへ分散して拠出を行うという点で、これまでにない取り組みとなりました。

—— 埋もれた課題をお客さまに知っていただく機会に

橋本： 支援先さまと対話を重ね、基金の活用方法をともに考えてきました。主な拠出先は、長期入院中の子どもたちに付き添うご家族のサポートを行っている「キープ・ママ・スマイリング」さんや、困難を抱える若者の相談窓口「ユメサキチャット」を運営する「D×P」さんがあります。支援が後回しになってしまいがちな課題、子どもに携わる活動をされている団体さまへ優先的にお声がけしています。また、従来の基金よりも間口を広げたことで、これまでリーチできていなかった課題に対しても、柔軟に支援できるようになりました。新型コロナウイルスの感染拡大によって顕在化してきた、これまであまり知られていなかった社会課題を多くの方に知って頂きたいです。

—— どこまでも当事者に寄り添う基金でありたい

橋本：視点を変えれば誰もが生活者であり、自分が明日、支援が必要という状況に置かれてもおかしくありません。自分だったらどのような支援を求めるのか、どのような取り組みであれば「助けて」と言いやすいのだろうかと考え続けています。また、今後は支援先さまとの出会いの機会や、ともにアクションしてくれるお客さまを増やして、必要とする方たちに迅速に支援をお届けできるよう基金の体制を強化していきながら、団体さまのはじめの一歩、二歩のところに寄り添える基金であり続けたいと思っています。

ご取材いただけるポイント

・しあわせな未来作りのための「フェリシモたすけあい基金」呼び掛けの様子

▲カタログやWEBサイト、SNSなどを使用して寄付のご協力を呼びかけている。

・オフィスでのデジタル＆販売リーダー風景

▲DXを駆使してフェリシモ事業を支えるリーダーとして販売活動をけん引している。

参考資料：マンスリートピックス

2月 バレンタインデー（14日）

チョコレートの裏側に隠れた「社会問題」。原料となるカカオを生産する途上国での深刻な児童労働の削減に取り組んでいます。これまでガーナでは550人以上の子どもを児童労働から救い、約4,500人の子どもの教育を支援してきました。

◆ 関連する取り組み…LOVE&THANKS基金

＜現場レポート＞

ガーナにおいても、コロナ禍における影響は甚大でカカオ農家や子どもたちの生活に大きな影響を与えています。青空市場への人流が大幅に制限されると、多くの農家は現金を獲得する手段を失い、経済的に困窮した家庭では子どもたちが児童労働に戻ってしまう事態も……／認定NPO法人 ACE

3月 国際女性デー（8日）

フェリシモは経営理念である「しあわせ社会学の確立と実践」の一環として、従業員のワークライフバランスについて配慮がなされています。誰もが働きやすい会社を目指し、産休取得後の復職率と男女育児休業率はほぼ100%、女性管理職の割合も日本の平均8.9%を大きく上回る32%です。年齢問わず、女性の偶数年齢の乳がん検診も会社が負担しています。

5月 子どもの日（5日）

すべての子どもが、健やかに育ち、安心して「子ども時代」を過ごせるように。子どもに関する国内外の様々な支援を行っています。

◆ 関連する取り組み…おてらおやつクラブ支援、たすけあい基金、フェリシモ ハッピートイズプロジェクト，こどもフェリシモほか

＜支援先の声＞

コロナ禍で事務局に届く「助けて」の声は、前年と比べて2020年度は4.9倍に急増。当団体が支援をしている世帯数も1,720世帯（2021年３月末時点）になり、日々その深刻さは増しています。当団体の支援を通して、「ひとりじゃない、頼れる場所がある」、「また明日からがんばろう」といったポジティブな心理的変化に寄与できていることを実感しています。／特定非営利活動法人おてらおやつクラブ

参考資料：マンスリートピックス

8月　クールビズ

地球温暖化を食い止めるためにはエアコンは使わない方が良いけれど、熱中症になれば誰かの命に関わること。フェリシモではサステナブルな環境への取り組みを実施しています。ペーパーレス化、電気エネルギーの削減に加えて暑さの厳しい6～9月の一定期間限定で、環境配慮（省エネ）と体調管理の両立のために男性のハーフパンツの着用が認められています。

9月　台風と防災の日（1日）

毎年のように起きる「史上最大級」の自然災害。災害を受けた地域の復興支援と普段からの防災啓蒙をどちらも行っています。

◆ 関連する取り組み…もしもしも防災プロジェクト、もっとずっときっと基金など

11月　ブラックフライデー

日本では1年間に約29億着の衣服が供給され実に半分の約15億着が売れ残っているといわれています。売れ残った服は「ブランド価値を保つために廃棄処分になる」というのです。フェリシモは商品サービスにとどまらず、毎月お客さまにお届けするカタログでサステナブルなライフスタイルを提案。アクションカタログ「more　felissimo　［モアフェリシモ］」で「つかいきる」ことを提案したり、生地や黒染めのファッションアイテムを企画したりと、社員ひとりひとりの想いから取り組みを実現しています。

---

column

フェリシモ広報担当者のイチオシカタログ

「したことないことやってみよう！」をコンセプトに、今より“もっと”しあわせな世の中にするアクションやきっかけをともに考え、一歩踏み出しやってみるきっかけメディア「more　felissimo　［モアフェリシモ］」を2021年にスタート。goodなアクションを重ねていけば、自分はもちろん、家族の、地域の、社会の、そして地球全体のgoodに近づいていくはず……！日々を豊かにする商品を様々提案してきたフェリシモが、カタログやウェブサイトを通じてアクションを発信するこれまでとは違うしあわせの種まきです。

河島春佳さんに教わる「お花のつかいきり方」

「服を黒く染めてつかいきるって、どういうこと？」

企業情報

株式会社フェリシモ

・英語名

FELISSIMO CORPORATION

・創立

1965年5月

（現・株式会社フェリシモは2002年8月に分割設立）

・本社所在地

〒650-0041

神戸市中央区新港町7番1号 Stage Felissimo

・事業所

>> エスパスフェリシモ

〒654-0161

神戸市須磨区弥栄台2-7

>> 東京オフィス

〒150-0001

東京都渋谷区神宮前1-11-11

・代表者

代表取締役社長　矢崎和彦

・連結従業員数

連結従業員数　745名（2022年２月末現在）

・事業内容

ダイレクトマーケティング事業

・ウェブサイト

https://www.felissimo.co.jp/